



「あいさつ」

校長 三浦 伸之

5月になり、いよいよ私の苦手とする「暑い季節」が目の前までやってきています。条件反射なのか、昔から「暑い」「辛い」を想像すると結構汗をかきます。今もこの学校だよりを作りながら、「暑い」ことを想像して額にうっすらと汗を感じています。でも、「暑い」とか「辛い」を想像するだけで汗がかけるなら、うっすらとではなく、いっそのことダラダラと滝のような汗がでてくれれば、自宅にいて、しかも道具を使わず、無料でサウナ効果が得られ、ダイエットにもつながる。題して「条件反射ダイエット」となるのに。などとバカなことを考えてしまいました。

さて、外食をしている時など、一人で来店しているにもかかわらず、食べる前にきちんと「いただきます」と言っている人をみかけることがあります。きっとこの人は、家で一人、食事する時にもちゃんと「いただきます」をいっているんだろうな～と想像します。私も人から食事をいただく時などはもちろん「いただきます」と言いますが、外食する時や、家で一人の時に言ったことはありません。ですから、一人でもちゃんと「いただきます」と言える人を見ると、とっても「素敵な人だな」と思います。この他にも「おはよう」「こんにちは」「さようなら」「ありがとう」など、日本にはたくさんの「あいさつ」がありますが、これらには、諸外国でも同じような意味をもつ言葉があります。でも、「いただきます」に関しては、日本独特の文化のようで、いろいろと調べてみても諸外国には「いただきます」にあたる言葉はないようです。「いただきます」は、「頭に載せる」「目よりも高く物を捧げる」の意で、神様に供えたものや、身分の高い人から物を受け取るときに、頂（頭の上）にかかげたことから、「食べる」「もらう」の謙譲語として使われるようになったとのことですが、これが時代を経て、「生き物を殺して、その命をいただくことに感謝する」「調理してくれた人に感謝する」という意味合いになったそうです（※諸説あります）。諸外国の人からすると、最初は戸惑いがあるものの、「感謝の心」を大切にするこの「いただきます」はとても素敵な文化に感じているらしいです。目の前にある様々なものに感謝の心をもつという、日本文化のとても美しい部分であると個人的には感じます。私も反省して、今度から「いただきます」を感謝の念を込めて言おうと思います（言えない時には心の中で言います）。「いただきます」も含め、「あいさつ」には「相手を尊重する」「コミュニケーションのきっかけ」など様々な意味や効果がありますし、何より気持ちがいいことです。これからグローバルな世界で生きていく子どもたちにとって TPO に合わせた「あいさつ」ができることは、大きな武器にもなりますし、とても大切なことだと考えます。そのような中で、本校に来校されるお客様によく言われるのが、「岸川中生は気持ちのいいあいさつができますね。」「笑顔であいさつしてくれます。」です。私はこの言葉をとても嬉しく感じます。もちろん学校でも指導していますが、何よりもご家庭でのご指導や、地域の方々が子どもたちとあいさつを交わしてくださる。ということが大きく影響していると感じており感謝しております。心地よい「あいさつ」ができるこの岸川中学校の伝統をこれからも守っていきたいと思います。